

井戸端通信

〒930-0096
富山県富山市舟橋北町7-1
富山県民生涯学習カレッジ
TEL 076-441-8401

「あい」に満ち、自遊に生きる」

県民カレッジ学長 菊池政則



2020年は、東京でオリンピックが開催されることにより、東日本大震災からの復興を強くアピールし、日本の底力が世界に広く示される記念すべき年になるはずであったが、今もなお被害がもたらされている新型コロナウイルスの大感染によって全てが水泡に帰すことになってしまった。

無論、世界各国、日本そして本県はもとより、県民カレッジも例外ではなく、その活動が制限され、なかなか人とふれあい語らうこともなく現在に至っている。その意味では、今年ほど、「人と人との関わりが大事だ」と実感した年はないのではないだろうか。人々はウイルスに怯え、外出を自粛し、今までとは全く違う日常を送ることを余儀なくされている。鬱々として、家に閉じこもりがちなか毎日の中で、人々を励まし勇気づけてくれるのは、まずは家族であり、友であり、そして仲間である。

特に、県民カレッジでは、早くから仲間づくりに取り組んできたところであるが、その最たるものが「自遊塾」であろう。

一つのテーマをもって「学びあい」、「深めあい」、「語りあい」、「高めあい」、「広めあい」そして究極の「遊びあい」を通じて最高の仲間づくりを達成し、コミュニティ形成を行っている。

コロナのようなウイルスが地球上から消えてなくなることはないだろうが、「あい」に満ちた「自遊塾」で培われた仲間意識、すなわち「自遊な心」は、今こそ深めるチャンスであろう。

令和3年度 自遊塾 県民教授（ボランティア講師）募集中

～ 締切 令和3年1月15日（金）必着 ～

詳しくは 富山県民生涯学習カレッジまで : TEL 076-441-8401

新型コロナウイルス感染防止対策のため

今年度 自遊塾は後期（10月～12月）のみの開講となりました。

令和2年度開講の主な条件

今年度自遊塾は、例年どおり5月開講予定110講座（県民教授候補89名）の塾生募集を開始したが、新型コロナウイルス感染の拡大、4月7日全国に緊急事態宣言、富山県内でのクラスター多発などのため開講を中止せざるをえず、感染防止対策を講じたうえで改めて後期10月からの講座を募集した。

この結果、令和2年度自遊塾は、10月から42講座（県民教授36名）での開講となった。

- (1) 以下の講座については、開講を認めない。
 - ①マスクを常時着用できない講座
 - ②飲食を伴う講座
 - ③カレッジ本部または地区センター以外の場所
 - ④集団で声を一齐に出したり、大きな動きを伴ったりする講座
 - ⑤道具等を塾生同士で共有する講座
- (2) 3密を防ぐため、募集人員を制限。
(部屋の利用人数目安：教文403号20名程度、203・304号10名程度)
- (3) 開講期間が10月から12月2週目までのため、講座回数は3回程度。

with コロナ・after コロナ時代の自遊塾とは

前年度塾長 澤田 隆彰

2020年当初、新型コロナウイルス感染が報道され始めても全くのひとごとであった。しかし、またたく間に感染が拡大し、塾生募集中だった自遊塾も5月開講は中止となり、今年度の開講は無理か、とさえ思った。

しかし、県民カレッジ（事務局）の尽力により、感染対策・開講条件を定めたくえで改めて募集を行い、後期10月から3ヶ月、開講することができた。事務局に感謝申し上げたい。

その一方で反省したい点もある。今年度は変則的な開講であり県民教授会は組織されなかったが、前年度の県民教授会の一部役員で、事務局とオンライン講座の新設について話し合いを持った。

だが、県民教授会全員の意見を踏まえておらず、しかも話し合いというより交渉という展開になり、事務局との間でしこりを残しそうになった。オンライン講座はもちろん有効であるが、高齢者も多い県民教授、受講生には、そして講座の内容からは、集い対面で実施するのも必要であろうし、そのことに生きがいを見出している方も多いと思う。コロナの時代、自遊塾はどうすべきなのか、県民教授・塾生全員で考えていきたい。

今年度初めて自遊塾講座を開講しました

本部（県教育文化会館）開講講座

「江戸後期の人物像 - 1 播隆上人

県民教授 金尾 誠一

初めて講座を開きましたが、塾生の皆さんの熱心な取り組みの姿勢に励まされて終えることができました。参加者10名で、出席率、修了率ともに90%でした。資料を準備してみると、自分自身がまだよくわかっていないことが多いことに気づかされました。次も参加される方に喜んでもらえる内容にして講座を持ちたいと思います。



本部（県教育文化会館）・新川地区センター開講講座

漢字の寺子屋

県民教授 村田 繁

「漢字っておもしろいな」、「素晴らしい文字だな」と思ってもらえることを目標としています。

漢字という文字は歴史の生き証人です。その成り立ちを知ることは、古代人の知恵や思い、背景を知ることです。知れば驚きます。「へえー!!」です。一度見に来られ。



今年度初めて開講の講座は上記のほか、「伏木地区の歴史と文化を語る」（県民教授 上 忠）、「初歩の西洋古典語と関連語」（県民教授 黒田 太穂）、「司馬遼太郎歴史小説の魅力を共有する」（県民教授 寺岡 伸清）、「映像と講義による『立山信仰の里を歩く』（岩峯寺の文化遺産を巡る）」（県民教授 岡部 洋志）があります。

編集後記：今年度の自遊塾は、想像もしなかったコロナ禍という非常事態の中で、後期3か月間のみの開講となった。このため県民教授会は組織されず広報部会も発足しなかったが、わずか2ページとはいえ「自遊塾倶楽部 井戸端通信 Vol. 50」を発行できてよかった。（T. S）